

電子カルテ導入のメリット

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
事業企画推進室 室長
小林 俊夫

医療機関における電子カルテを導入するメリット(一般事例)

項番	施設		意識所持者			課題	課題解決事例
	診療所	病院	患者	医師	看護師		
1	○	○	○			医師の机の上が紙であふれ、診察室がゴチャゴチャしている施設は不安になる。(SNSでの高評価の医療機関では「院内が綺麗に整理されており、清潔感がある」の言う表記がある)	電子カルテの導入により、紙類の整理が進み、診察室を含めた院内の整頓がしっかりできる。また、書庫などの什器が減ることで省スペース化が実現でき、賃貸の家賃を抑えることができる。
2	○	○	○			特定薬剤にアレルギーがあると伝えていたのに、また同じ処方(処置)をしたので二度と来たくない。(SNSでの高評価の医療機関では「患者が以前言った事を覚えている」の言う表記がある)	電子カルテの患者基本情報にアレルギー記載があり、紙カルテと異なり、瞬時に取り出せる。また過去の診察記録の閲覧やキーワード検索が瞬時にできる他、処方薬の禁忌チェックも可能。
3	○ (一部)	○	○	○	○	医師、看護師、スタッフ等が伝言ゲームのように口頭で同じことを繰り返して伝えているが、間違いが無いのか心配。(SNSでの高評価の医療機関では「おしゃべりせずにキビキビと動いている」と言う表記がある)	電子カルテの導入により、多職種連携の情報共有を行うことでチーム医療が実現でき、また、申し送り等の紙の紛失や、手書きの読み間違い等を防ぐことが可能な他、3点チェック、画像レポート未読防止など、様々な医療ミスやヒヤリハットの低減が可能。
4		○		○	○	電子カルテの導入をしていない医療機関に勤務したくない、何故ならば、 1. 最近漢字がすぐに思い出せず、カルテ入力に一旦スマホで変換してから書き写すので時間がかかる 2. 医療文書やサマリ作成で、カルテや看護記録の内容の一部コピペすれば早く終るのに、紙カルテだと全て手書きしなくてはいけないので時間がかかる	電子カルテが導入されていれば、左記の課題は全て解決される

項番	施設		意識所持者			課題	課題解決事例
	診療所	病院	患者	医師	看護師		
5	○	○		○		患者と対面で診察しながらのカルテ入力、時に患者から「私の目を見て話を聞いてくれない」と不満が出る場合がある。又は患者の話を全て聞いた上で、診察後にカルテを入力すると一人あたりの時間がかかりすぎる。	音声認識を行うアプリを使って、AIが会話の内容をカルテ記載（主訴、所見など、SOAP形式）の様に変換して自動的にカルテの下書きが作成できる。
6	○	○		○	○	診断書、紹介状、主治医意見書、診療情報提供書、退院時サマリーなど、書類を作成する時間がとれず、結局勤務時間を超えた残業時間でやることが多い。また看護師も患者ケアサマリーを作成する時間がいつも残業時間になってしまう。	AIによりサマリーの生成が短時間又は自動的にやってくれて、更に文字数の制限なども指定でき、医師・看護師の労働時間の短縮に大きな効果がある。看護師で活用されている施設では離職率が大幅に下がったところもある。
7		○		○		インフォームドコンセント(I.C)の資料を作成するのに時間がかかり、一方、患者から見ると専門用語が多く、本人や家族の理解がなかなか得られない	AIにより自動的にI.Cの説明資料を作成したり、対象者の年齢や理解度レベル（高齢者、中学生、高校生等）に応じた記述に変換して作成してくれる
8		○		○	○	高齢の入院患者の転倒転落リスクへの対処の多くは、看護師業務の圧迫に繋がりが対応が難しい。	AIで電子カルテや看護記録を読み込み、転倒転落リスクを評価することで、看護師の負担を増やすことなく、重点的な患者のケアが可能になる。